

細胞が行って、留まる (homing)。そして種々の重要なfactorを出して、異常な炎症を抑えて、正常にregenerateするようにconditioningする。そしてrepairing & regenerationする。

今、疾患の概念は大きく変わろうとしている。ほとんどの難治性疾患を、Disorder of Regenerative Homeostasisとして見直す必要がありそうです。角膜ではstem cell failureという概念でとらえて、治療法が開発されている。

最後に、我々の現実が10年、20年さらに先にどうなるかを考えてみます。100歳以上の人口、今年は4万7千人。女性が圧倒的に多い。日本の直面する最大・最重要問題は、要介護です。本望先生の治療や堀江先生の進められている幹細胞療法を、一刻も早く完成させる必要がある。65歳以上の人は今は4人にひとり。これは、すぐに3人にひとりになる。地域によっては2人に一人。要介護率ゼロ、これが我々の実現すべき社会で、それは活力ある健康長寿の必要条件です。

病気を解明すれば、疾病は征圧される、疾病が征圧されれば、活力ある長寿健康社会になる、ことはそう単純ではない。それぞれパラダイムが全く違う。パラダイムの違いをよく理解して、対策を立てて、実践しないといけない。

そうしてはじめて正しい投資が可能になる。がんだ、がんだと騒いでいるけれども、がんとの闘いはすでに終わったと見てよい。実は日本全体の社会にとって最も重要なのはアルツハイマー、脳卒中、糖

尿病による失明、透析、そして関節障害。リソースは限られていますから、投入先をよく考えねばならない。実態調査がされていないなら、まずそれを優先しなければいけない。対象となる疾患に対して、それぞれについて、投資戦略マトリックスをよく見て、確実に有効な投資を行なわねばならない。

最も重要なこと

最後に、オルダス・ハクスリー、20世紀を代表する作家のひとりです。1932年に『Brave New World』というクローン社会を描いた小説を発表しています(『すばらしい新世界』角川文庫)。ぜひ読んでいただきたいと思います。我々はいったいどういう社会を作らなくてはならないか、価値観が問われる。今、人々は科学にcommitしてそれをビジネスとして、ビジネスからまた科学へと、ことが進んでいる。実際に我々が考えないといけないのは、人間の価値と幸福とは何かということではないか?この先、確実に先ほどのような人口構成の社会になってしまいます。その中で我々はどうか、どういう価値観で生きるか、100歳、センテナリアンをどう生き抜くか、幸福とは何か、今から次のgenerationにきちっと伝えられるよう議論を深めましょう。今、この地では、世界最先端の自己幹細胞療法の開発が進んでいる。それらを北海道としてもencourageしていただいて、新しい社会を作るリーダーシップを取っていただきたいと切に願うものがあります。どうもご清聴ありがとうございました。

お知らせ

研修会等への託児サービス併設費用の助成について

当会では、育児中の女性医師などに対し、学習する機会を確保することにより、勤務継続や復職の支援を行うことを目的に、**全道規模の専門医会等**が主催・後援する会議や研修会などにおいて託児サービスを併設した場合の費用として2万円を上限に助成することといたしております。

つきましては、該当の会議、研修会等がございましたら、当会事業第五課までご連絡くださいますようお願いいたします。

助成基準

1. 対象 全道規模の専門医会等が主催・後援する会議、研修会、講演会など
【助成内容】 託児室利用料、保育料、交通費
(遊具・おやつ・おむつ等購入代は対象外)
2. 期間 平成23年4月～平成24年3月実施分
3. 助成額 2万円を限度として実費を助成いたします。
4. 申請方法 領収書の写し等を添付の上、所定の用紙*によりご申請ください。
※ 下記連絡先までご請求願います。

《連絡先》 北海道医師会事業第五課
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL 011-231-1434 (直通) FAX 011-241-3090 E-mail: 5ka@m.dou.jp